

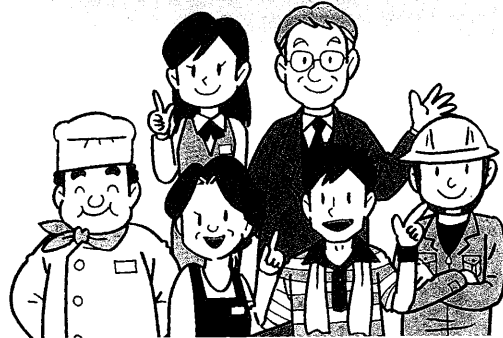


監督署の窓

忙しい年度末の前の準備に

1年は地球が太陽を公転する周期を指します。太陽が地球を1周するには、365・2422日は、必要で端数を四(うるう)時で調整しています。暦は古代エジプトのユリウス暦、グレゴリオ暦と改良され、現在の太陽暦が世界に普及したようです。わが国は、かつて太陰暦(月28日)を採用していましたが、明治5年12月から現在の太陽暦を採用しています。余談ですが、太陰暦で

年度の締めくくりに 職場環境の総点検を



は、1年が13カ月あり、それ以前の公務員を含む月給取り者の賃金が年に13回支払われていたのですが、太陽暦が採用され、賃金支払いの回数が12回となったわけで、月給取りの不満は相当なものだったようです。ただ、財政難だった政府の支出削減とともに、資本家にとっても、賃金の支払いが減るわけなので、政府や資本家にとっては歓迎する政策だったといえるでしょう。

太陽暦では、1月をローマ神話の物語の始めと終わりを掌る神(Janus)の月としました。私たちも1月から始まり12月を終わりの月として年を認識しています。一方、「年」とは別に「年度」という単位があります。欧米では学校

年度のことを School (academic) year とし、英米独は9月に、豪州は10月に始まるようです。経済的には米国の会計年度は、fiscal year として10月に始まり、英国では会計年度を financial year として4月6日から翌年の4月5日まで締めくくるようです。わが国の財政法第11条では「国の会計年度は、毎年四月一日に始まり…」となっています。わが国で年度という時

の制度の始まりは、国家予算の会計年度を導入したのが切っ掛けだったようです。米国にならって当初は、10月始まりでしたが、その後、1月始まり、7月始まりなどと試行錯誤を重ね、明治19年度(1886)から4月始まりになりました。その理由としては、収穫や生産開始、需要の切れ目が年度の変わり目になったようです。多くは米の生産開始を前にした時期が、都合が良かったものと考えられます。

ら、4月に揃えるようになっていったという話を聞きます。年度末は人事や会計など事業主にとっても働く者にとっても大切な締めくくりです。忙しくなく、出荷や商品管理など普段にも増して、人や物が動くこととなる時期です。

ちなみに、官公庁が4月始まりになっても、学校の多くは9月始まりだったようですが、軍隊が4月始まりになったので、同じ時期に募集しないと優秀な生徒を軍隊にとられてしまうということが

こんな時期はなにかと、労働災害発生の芽が潜んでいるものです。業務多忙の中、ちよつと早めですが年度の締めくくりに、職場環境の総点検をして見たいかがでしょうか。労使一体となって職場における安全管理を徹底し、画竜点睛といきたいものです。

名古屋北監督署のダイヤルイン

監督係(方) 画 (052) 961-8653
安全衛生係(安全衛生課) (052) 961-8654